

町小だより

令和5年
4月27日
No. 674
御免町小学校

優しく 粘り強く

校長 相澤 祐助

「校長先生、明日の昼休み、一緒に遊べますか？お仕事や出張がなかったらですが」と昼休みに、ある学年の男子が校長室に来て、私を誘ってくれました。その昼休みは特に予定がなかったので、「大丈夫だよ。晴れたら遊びましょう」と答えました。「校門のそばの山の上で待っています」とその子は待ち合わせの場所も伝えてくれました。

当日、ちょっと風が強かったのですが、天気は快晴。風に私の名札のひもが巻かれてしまいました。すると、「校長先生、名札が変になってるよ」と山の上で一緒に待っていた他の男子が直してくれました。そして、その学級の男女、大勢で鬼ごっこが始まりました。グラウンド全体がエリアです。58歳の私も走れる範囲で逃げたり、鬼になったりして遊びました。春の心地よい風にあおられながら、汗をかく、幸せな時間でした。

1学期の始業式で私が子どもたちへ伝えた言葉は、「優しく」「粘り強く」です。今年、私が子どもたちに目指してほしい姿でもあります。

「優しく」とは、自分や友達、学校、地域を**大切に**することです。誰に対しても、いじわるな言葉をいったり、いやなことをしたりしません。温かい言葉をかけ、困っている仲間がいたら相談にのってほしいのです。先ほど話をした、男子はまさに「優しい」思いを表現しています。校長を呼び、クラスみんなで楽しく遊ぶという企画を立て、実際に実行する。全員が笑顔で遊ぶ時間がそこにありました。

「粘り強く」とは、自分が立てた目標が達成できるように**努力し続ける**ことです。途中で、失敗することや、投げ出したくなることもあるでしょう。でも、簡単にはあきらめず、失敗を糧として、目標に向かって工夫し、再度挑戦してほしいのです。最終的には、目標には届かないかもしれませんが、そうなったら、違う目標を立て直せばよいのです。どこまではできたのか、また、何が原因でできなかったのか、ここを自分で考えることに大きな価値があります。目標に向かうまでの道のり、途中でこそ、大切なものがあると私は思います。

令和5年度がスタートしました。インフルエンザがなかなか収まらず、欠席する児童もいて心配な状況がまだ続いているようですが、徐々に元気な町小の子どもたちが戻ってきました。今年も、子どもたちを教育活動のまんなか置き、「優しさ」と「粘り強さ」を掲げて学校を進めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

鬼ごっこをした日の6時間目、グラウンドに行くと、さっき一緒に遊んだ学年の子どもたちが体育で100m走の授業をしていました。「校長先生も走ろうよ」と声をかけられたので、走る仲間に入れてもらいました。担任の先生は、「校長先生、アキレス腱だけは切らないでくださいね」と優しい声をかけてくれました。「ようい、どん！」